

歯科衛生士の働き方に関する意向分析(2)：歯科衛生士総合研修センターでの調査

研究分担者 則武 加奈子 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部 助教
研究代表者 三浦 宏子 北海道医療大学歯学部 教授
研究分担者 福田 英輝 国立保健医療科学院 統括研究官
研究分担者 田野 ルミ 国立保健医療科学院 生涯健康研究部 主任研究官
研究分担者 大島 克郎 日本歯科大学東京短期大学 教授

研究要旨

【目的】 厚生労働省が平成29年度より実施している「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止事業」を利用した歯科衛生士を取り巻く状況や、勤労観、職業観を分析し、今後の活動推進を図るための基礎資料を提示すること。

【方法】 厚生労働省委託事業先である東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科衛生士総合研修センター・大阪歯科大学歯科衛生士研修センター・広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターを2020年3月までに受講した215名を対象とした。郵送法による無記名の自記式質問票調査を実施した。調査項目は、①センター受講時、養成校卒業時、離職時などでの状況や、勤労観や職業観等、②University of Tokyo Health Sociology version of SOC 3 Scale（東大健康社会学版3項目SOCスケール：以下SOC-UTHS）引用、③属性を主要項目とした29問の質問を設定した。2019年度に実施した結果と合わせて、はじめに、全数における単純集計を行ったのち、免許取得3年未満（以下「新人」）、免許取得後3年以上かつ離職中・復職後3年未満（以下「復職」）、免許取得後3年以上かつ離職歴のないもの（以下「継続」）の3群に分け各々における傾向を分析した。

【結果】 調査対象者124名に回答を依頼した結果、88通の返送があった（回収率71.0%）。2019年度分と合わせると、215名に依頼し、156通の返送となった（回収率72.6%）

「新人」（32名、20.5%）、「復職」（111名、71.2%）、「継続」（13名、8.3%）であった。回答者の平均年齢は、44.1歳（22-69歳）であった。「新人」の平均年齢は31.7歳（22-56歳）、「復職」の平均年齢は47.6歳（27歳-63歳）、「継続」の平均年齢は39.9歳（26-56歳）であった。センターでの研修を受講しようと考えた理由は「新たな知識・技術を身につけたい」が27%と最も多く、次いで「スキルの向上」「自信をつけたい」がともに26%であった。回答者の86%が研修を受講して「とても良かった」あるいは「良かった」と回答した。研修を受講して感じられたこととして、「新しい知識・技術が身についた」が62%と最も多く、次いで「自信がついた」（46%）、「相談できる環境・仲間ができた」（44%）と続いた。

回答者のうち72%は歯科衛生士として離職経験があり、「復職」では職を離れていた理由として78%が「結婚、子育てのため仕事ができなくなったから」と回答した。復職を考えたきっかけとしては、「子育てなどがひと段落したから」が50%と最も多く、次いで「仕事をする必要性ができたから」（27%）であった。

【結論】 免許取得直後、求職中・復職直後の歯科衛生士の研修受講は知識・技術の獲得、相談できる仲間・環境の獲得、自信の獲得につながったと考えられた。また、免許取得直後では仕事のやりがいの体得、離職中・復職直後者には仕事と生活が両立可能な勤務条件（勤務時間・勤務場所）の整備も歯科衛生士の離職防止・復職支援において重要と考えられた。

A. 研究目的

高齢期の口腔衛生管理の重要性から歯科衛生士のニーズの増加が指摘されているが、未就業者が多く、歯科衛生士数は不足している。歯科衛生士の就業に関するこれまでの研究では、30歳代での未就業率が高いことに加え、20歳代での歯科衛生士で1/3以上が離職経験を有していた（厚労科研 H29-医療-一般-003）。こうした現状を改善するべく、厚生労働省では平成29年～30年度と令和2年度では補助事業として、また令和元年度は委託事業として、歯科衛生士に対する復職支援・離職防止に関する事業を実施している。令和元年度は、厚生労働省委託事業先である東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科衛生士総合研修センターをセンターが開設された2017年12月から2019年9月までに受講した91名を対象とした調査研究を実施した。2020年3月末までに歯科衛生士に対する復職支援・離職防止に関する研修プログラムを受講した歯科衛生士を対象とした。本研究の目的は、復職支援・離職防止研修プログラムの対象となる歯科衛生士を取り巻く状況や、勤労観や職業観を分析し、今後の活動推進を図るための基礎資料を提示することである。

B. 研究方法

(1) 対象

厚生労働省委託事業先である東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科衛生士総合研修センターを2019年10月から2020年3月までに受講した19名、大阪歯科大学歯科衛生士研修センターを2018年4月から2020年3月までに受講した64名、広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターを2019年4月から2020年3月までに受講した41名を対象とした。

(2) 調査方法

郵送法による無記名の自記式質問票調査を、2020年9月9日（水）から同年9月30日（水）に行った。調査票は、2019年度に歯科衛生士の就業に関する先行研究の調査内容を参考に設計したA3用紙両面1枚に3項目29問からなる調査票を一部改変し使用した。調査項目は、①センター受講時、養成校卒業時、離職時などでの状況や、勤労観や職業観等、②University of Tokyo Health Sociology version of SOC 3 Scale（東大健康社会学版3項目SOCスケール：以下SOC-UTHS）引用、③属性に関することとした。

本調査は、東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科衛生士総合研修センター・大阪歯科大学歯科衛生士研修センター・広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターの協力を得て行った。調査票は対象者に、研究班からの調査依頼文および歯科衛生士総合研修センターセンター長からの依頼文を付し、返送用封筒とともに送付した。

(3) 分析方法

2019年度に実施した結果と合わせて、はじめに、全数における単純集計を行ったのち、免許取得3年未満（以下「新人」）、免許取得後3年以上かつ離職中・復職後3年未満（以下「復職」）、免許取得後3年以上かつ離職歴のないもの（以下「継続」）の3群に分け各々における傾向を分析した。

(4) 倫理面への配慮

研究代表者が所属する国立保健医療科学院の研究倫理審査を受け、承認されたうえで実施した（承認番号：NIPH-IBRA#12254）

調査協力は自由意志によるものとするを調査依頼文に明記した。

C. 研究結果

調査対象者 124 名に回答を依頼した結果、88 通の返送があった（回収率 71.0%）。2019 年度分と合わせると、215 名に依頼し、156 通の返送となった（回収率 72.6%）センター受講時の状況の回答から、「免許取得 3 年未満就業中」ならびに「免許取得 3 年未満離職・休職中」を「新人」（32 名、20.5%）、「免許取得 3 年以上で離職・休職中」ならびに「免許取得 3 年以上で離職経験有り」を「復職」（111 名、71.2%）「免許取得 3 年以上で離職経験無し」を「継続」（13 名、8.3%）とした。

1) 属性

回答者の平均年齢は、44.1 歳（22-69 歳）であった。「新人」の平均年齢は 31.7 歳（22-56 歳）、「復職」の平均年齢は 47.6 歳（27 歳-63 歳）、「継続」の平均年齢は 39.9 歳（26—56 歳）であった。免許取得年からの平均経過年数は 20.5 年（1-43 年）、「新人」が 1.9 年（0-3 年）、「復職」が 26.1 年（5-43 年）、「継続」が 16.6 年（4-36 年）であった。

調査票に回答した時点における勤務状況としては、37%が常勤、48%が非常勤、6%が休職中、10%がその他であった。「新人」では、88%が常勤、13%が非常勤であった。「復職」では、17%が常勤、62%が非常勤、8%が求職中、12%がその他であった。「継続」では、77%が常勤、15%が非常勤、8%がその他であった。（図 1）

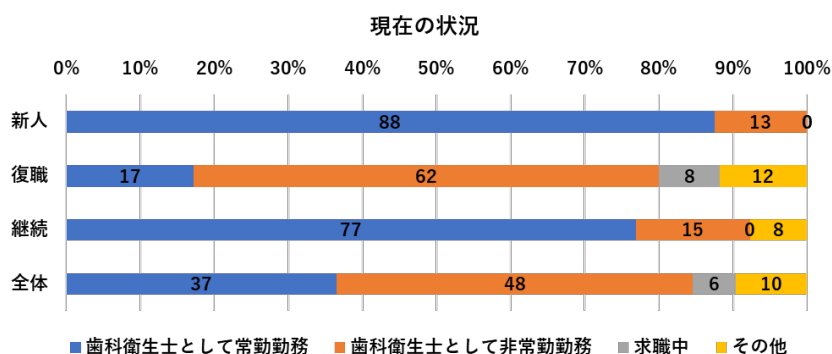


図 1：回答者の現在の勤務状況

勤務先としては、71%が歯科診療所、10%が在宅訪問歯科診療、9%が病院（一般・歯科）、5%が介護施設、4%が行政、2%がその他であった。「新人」では、歯科診療所が 84%、病院（一般・歯科）が 16%であった。「復職」では、歯科診療所が 62%、在宅訪問歯科診療が 15%、病院（一般・歯科）と介護施設がともに 7%、行政が 6%、その他が 2%であった。「継続」では、歯科診療所が 92%、病院（一般・歯科）が 8%であった。（図 2）

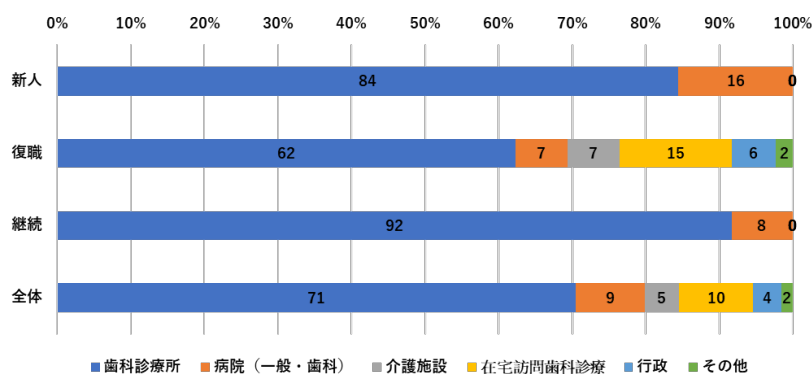


図 2：回答者の現在の勤務先

2) 歯科衛生士総合研修センター受講に関連する設問

センターを知ったきっかけとして、「インターネット」が 33%と最も多く、次いで「知人からの紹介」と「勤務先の上司・同僚からの紹介」がともに 17%、「チラシ」が 13%であった。「新人」では、「チラシ」が 34%、次いで「勤務先の上司・同僚からの紹介」が 31%、「インターネット」と「知人からの紹介」がともに 13%と続いた。「復職」では、「インターネット」が 42%、「知人からの紹介」が 18%、「出身校などからの紹介」が 13%であった。「継続」では、「勤務先の上司・同僚からの紹介」が 38%と最も多く、次いで「知人からの紹介」が 23%、「チラシ」と「出身校などからの紹介」がともに 15%であった。(図 3)

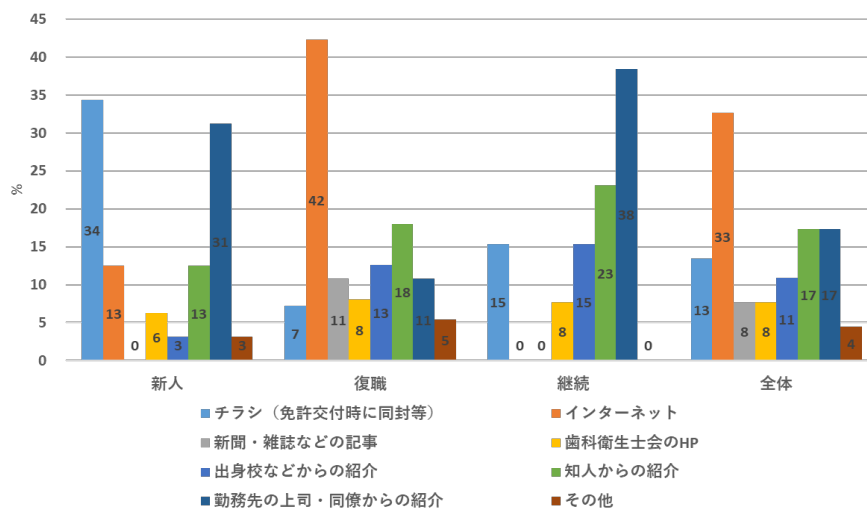


図 3：センターを知ったきっかけ

研修を受講しようと考えた理由を、選択肢から重視する順番に 1 位から 3 位まで回答を求めたところ、「新たな知識・技術を身につけたい」が 27%と最も多く、次いで「スキルの向上」「自信をつけたい」がともに 26%であった。1 位では「スキルの向上」が最も多く 35%で、次いで「新しい知識・技術を身につけたい」が 21%、「自信をつけた

い)・「復職しようと思ったから」がともに19%であった。2位では「自信をつけたい」が31%で最も多く、3位では「新しい知識・技術を身につけたい」が30%で最も多かった。「新人」の1位では「スキルの向上」が最も多く66%、2位では「自信をつけたい」が最も多く41%、3位では「新しい知識・技術を身につけたい」が最も多く32%であった。「復職」の1位では「復職したいと思ったから」が最も多く27%、2位では「新しい知識・技術を身につけたい」が最も多く31%、3位では「自信をつけたい」が最も多く30%であった。(図4)

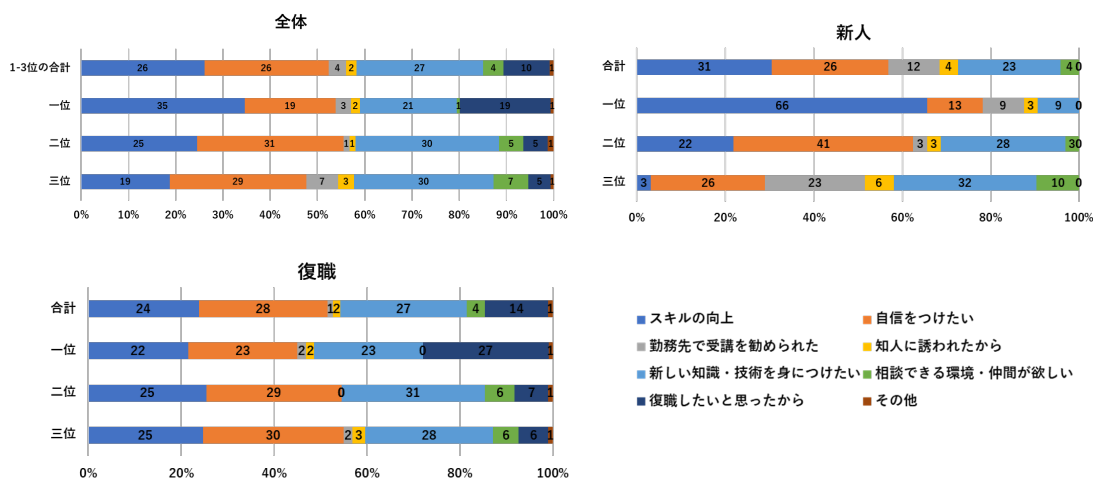


図4：研修を受講しようと考えた理由（全体、新人、復職）

研修を受講して良かったかの質問では、60%が「とても良かった」、26%が「良かった」、8%が「まあまあ良かった」、3%が「普通」、3%が「あまり良くなかった」と回答した。「新人」では、50%が「とても良かった」、41%が「良かった」、30%が「普通」、6%が「まあまあ良かった」と回答した。「復職」では、61%が「とても良かった」、23%が「良かった」、10%が「まあまあ良かった」と回答した。「継続」では、77%が「とても良かった」、15%が「良かった」、8%が「普通」と回答した。

研修を受講して感じられたことを選択肢から複数回答可で回答を求めたところ、「新しい知識・技術が身についた」が62%と最も多く、次いで「自信がついた」が46%、「相談できる環境・仲間ができた」が44%、「スキルが向上した」が35%と続いた。「新人」「復職」「継続」のいずれにおいても、「新しい知識・技術が身についた」と回答した者が最も多かった。(図5)

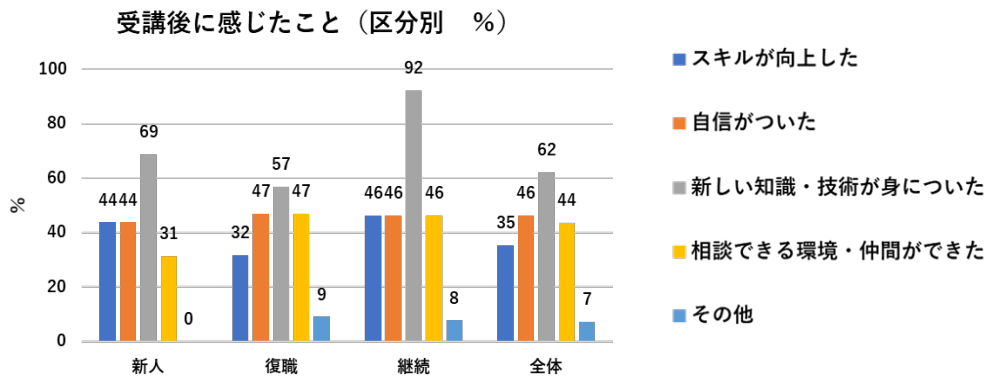
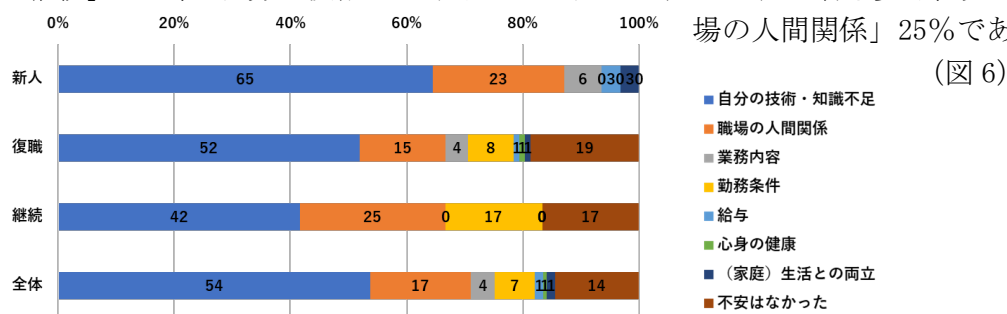


図5：研修を受講して感じられたこと

3) 卒業直後の状況に関する設問

卒直後の就職時の不安に関しては、「自分の技術・知識不足」を選択した者が54%と最も多く、次いで「職場の人間関係」が17%であった。「新人」では、「自分の技術・知識不足」を選択した者が65%と最も多く、次いで「職場の人間関係」が23%であり、「不安はなかった」を選択した者はいなかった。「復職」では、「自分の技術・知識不足」を選択した者が52%と最も多く、次いで「不安はなかった」が19%であった。「継続」では、「自分の技術・知識不足」を選択した者が42%と最も多く、次いで「職場の人間関係」25%であった。



(図6)

図6：卒直後の就職時の不安

卒直後の新人歯科衛生士に対して、早期の離職防止につながること（以下、重要事項）として、選択肢から重視する順番に1位から3位まで回答を求めたところ、1位では、「相談できる仲間・環境」が28%と最も多く、次いで「技術不足へのフォロー」が21%、「職場の上司・先輩の励まし」が17%と続いた。2位では、「技術不足へのフォロー」が26%と最も多く、次いで「知識不足へのフォロー」が23%、「相談できる仲間・環境」が17%と続いた。3位では、「技術不足へのフォロー」が28%と最も多く、次いで「相談できる仲間・環境」が21%、「知識不足へのフォロー」が15%と続いた。「新人」における1位では、「相談できる仲間・環境」が28%と最も多く、次いで「技術不足へのフォロー」が19%であった。「新人」における2位および3位では、ともに「技術不足へのフォロー」が28%と最も多かった。「復職」における1位では、「相談できる仲間・環境」が27%と最も多く、次いで「技術不足へのフォロ

一」が23%であった。「復職」における2位では、「知識不足へのフォロー」が26%と最も多く、「復職」における3位では、「技術不足へのフォロー」が27%と最も多かった。「継続」における1位では、「相談できる仲間・環境」が31%と最も多く、次いで「勤務体制の管理」が23%であった。「継続」における2位および3位では、ともに「技術不足へのフォロー」が31%と最も多かった。(図7)

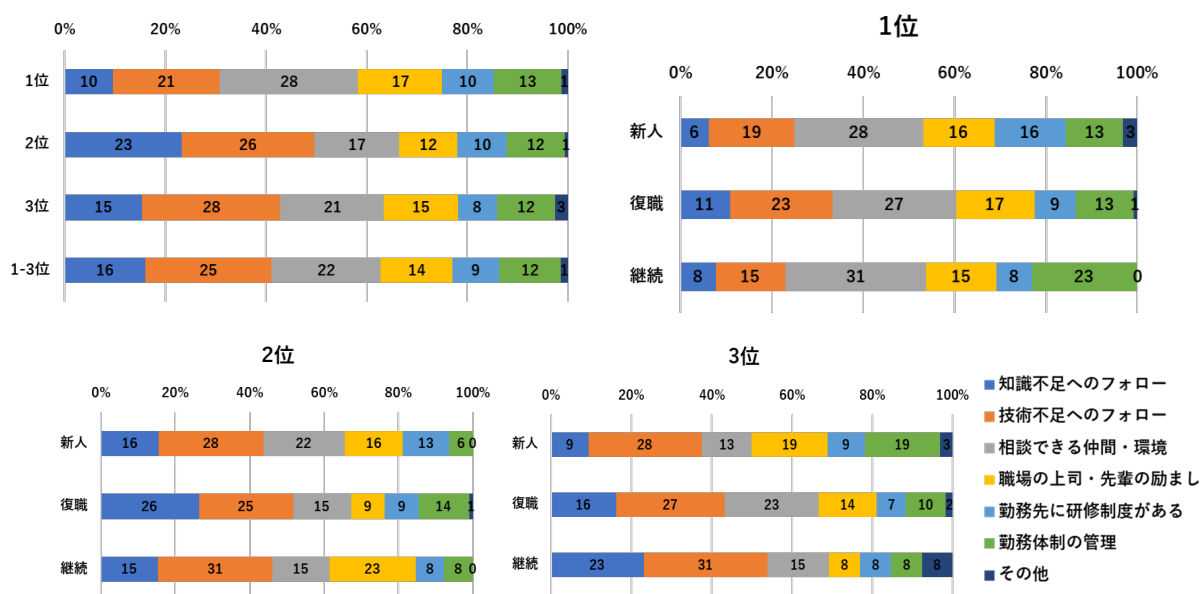


図7：卒直後の新人歯科衛生士に対する重要事項（左上は全体）

4) 離職経験ならびに復職を考えたきっかけ

対象者のうち、歯科衛生士としての仕事を離れていた時期があると回答した者は、72%であった。「新人」では13%、「復職」では97%の者に離職経験があった。(図8)

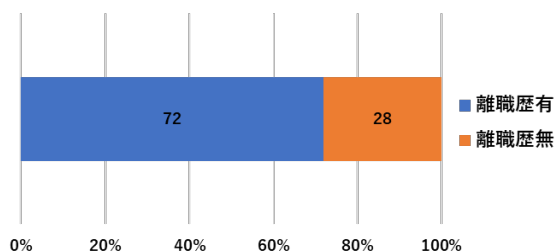
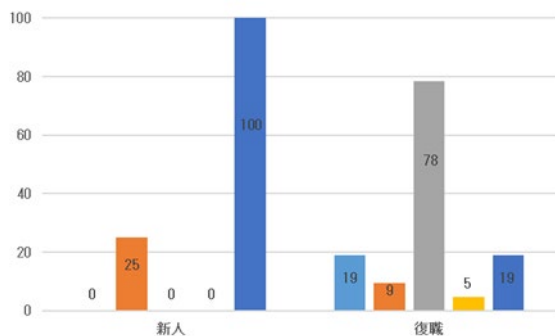


図8：離職経験の有無

歯科衛生士の職を離れていた理由を選択肢から複数回答可で回答を求めたところ、「結婚・子育てのため仕事ができなくなったから」と回答した者が75%と最も多く、次いで「その他」が22%、「歯科衛生士の仕事に魅力を感じなくなったから」が18%と続いた。「新人」では「その他」と回答した者が100%と最も多く、「復職」では、「結婚・

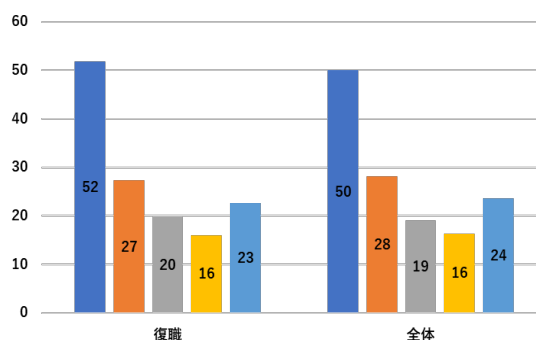
子育てのため仕事ができなくなったから」と回答した者が78%と最も多かった。(図9)

復職を考えたきっかけを選択肢から複数回答可で回答を求めたところ、「子育てなどがひと段落したから」が50%と最も多く、次いで「仕事をする必要性ができたから」が28%、「その他」が24%と続いた。(図10)



- 歯科衛生士の仕事に魅力を感じなくなったから
- 職場の人間関係の悪化から
- 結婚、子育てのため仕事ができなくなったから
- 仕事の内容があわなかったから
- その他

図9：離職を考えたきっかけ



- 子育てなどがひと段落したから
- 仕事をする必要性ができたから
- 社会の歯科衛生士に対するニーズを感じたから
- 歯科関係者に復職を勧められたから
- その他

図10：復職を考えたきっかけ

復職直後の歯科衛生士に対して早期の離職防止につながること(以下、重要事項)として、選択肢から重視する順番に1位から3位まで回答を求めたところ、1位では「技術不足へのフォロー」が32%と最も多く、次いで「知識不足へのフォロー」が20%であった。2位では、「技術不足へのフォロー」が37%と最も多く、次いで「知識不足へのフォロー」が30%であった。3位では、「相談できる仲間・環境」が23%と最も多く、次いで「勤務体制の管理」が21%であった。(図11)

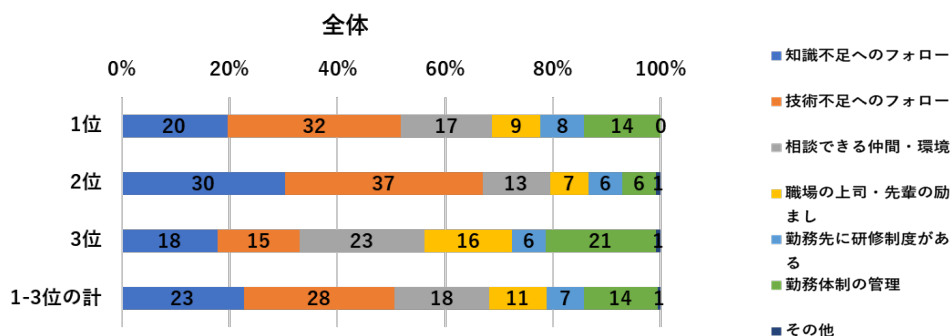


図11：復職直後の歯科衛生士に対する重要事項

5) 歯科衛生士全般について

歯科衛生士を長く続けるために大切だと思うこと(以下、重要事項)を、選択肢から重視する順番に1位から3位まで回答を求めたところ、1位では「勤務条件(勤務時間・福利厚生)」が28%と最も多く、次いで「仕事へのやりがい」が22%であった。2位で

は「勤務条件（勤務時間・福利厚生）」が22%と最も多く、次いで「自分のスキル」が16%であった。3位では「仕事へのやりがい」が16%と最も多く、次いで「心身の健康」が14%であった。

「新人」の1位では、「仕事へのやりがい」が38%と最も多く、次いで「勤務条件（勤務時間・福利厚生）」が22%であった。2位では、「勤務条件（勤務時間・福利厚生）」が25%と最も多く、次いで「仕事へのやりがい」が22%であった。3位では、「勤務待遇（給与）」が28%と最も多く、次いで「心身の健康」が19%であった。

「復職」の1位では、「勤務条件（勤務時間・福利厚生）」が31%と最も多く、次いで「仕事へのやりがい」が17%であった。2位では、「勤務条件（勤務時間・福利厚生）」が21%と最も多く、次いで「自分のスキル」が15%であった。3位では、「仕事へのやりがい」が18%と最も多く、次いで「復職時のサポート（研修会等）」が15%であった。

「継続」の1位では「仕事へのやりがい」が31%と最も多く、次いで「心身の健康」が23%であった。2位では「勤務条件（勤務時間・福利厚生）」が31%と最も多く、次いで「自分のスキル」が23%であった。3位では「仕事へのやりがい」・「勤務待遇（給与）」がともに23%と最も多く、次いで「相談できる環境」が15%であった。（図12）

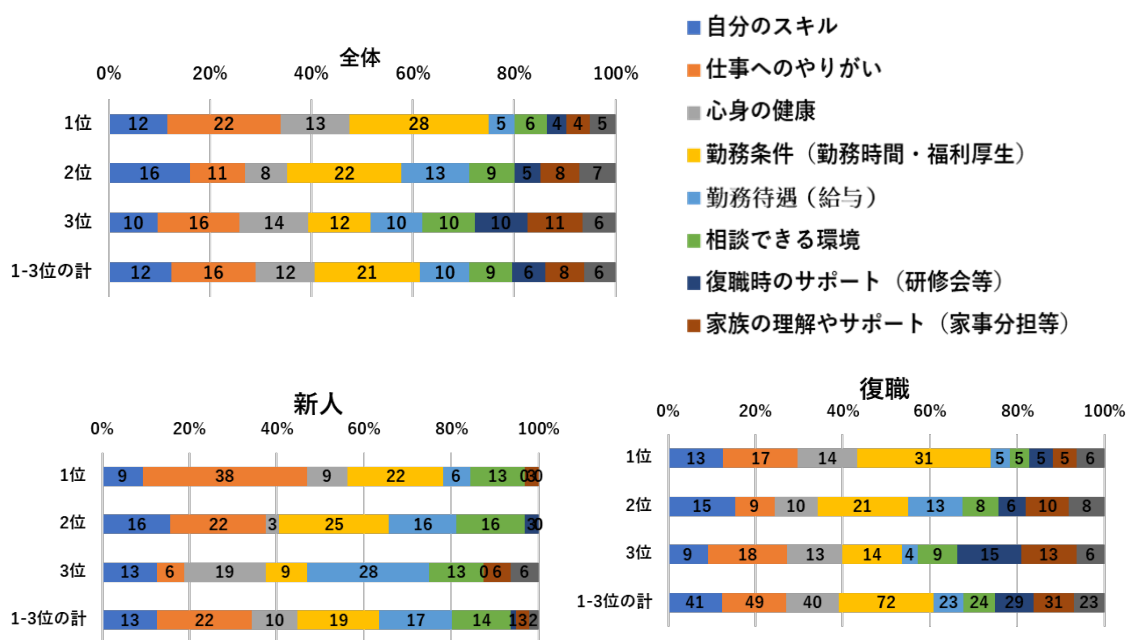


図12：歯科衛生士を長く続けるための重要事項

生涯、歯科衛生士として働きたいかに関しては、「はい」が63%、「どちらともいえない」が33%であった。「新人」では「はい」が53%、「どちらともいえない」が34%、「復職」では「はい」が64%、「どちらともいえない」が34%、「継続」では「はい」が77%、「どちらともいえない」が23%であった。

歯科衛生士はやりがいのある仕事かについては、「はい」が83%、「どちらともいえない」が17%であった。「新人」では「はい」が69%、「どちらともいえない」が28%、「復職」では「はい」が86%、「どちらともいえない」が14%、「継続」では「はい」

が92%、「どちらともいえない」が8%であった。歯科衛生士になってよかったかについては、「はい」が74%、「どちらともいえない」が22%であった。「新人」では「はい」が63%、「どちらともいえない」が25%、「復職」では「はい」が76%、「どちらともいえない」が23%、「継続」では「はい」が85%、「どちらともいえない」が15%であった。

現時点におけるキャリア展望（仕事における将来設計）については、「あまり描けていない」が37%と最も多く、次いで「やや描けている」が34%、「描けていない」が17%、「描けている」が12%と続いた。「新人」では、「やや描けている」が38%と最も多く、次いで「あまり描けていない」が34%と続いた。「復職」では、「あまり描けていない」が37%と最も多く、次いで「やや描けている」が34%であった。「継続」では、「あまり描けていない」が46%と最も多く、次いで「描けている」が31%であった。（図13）

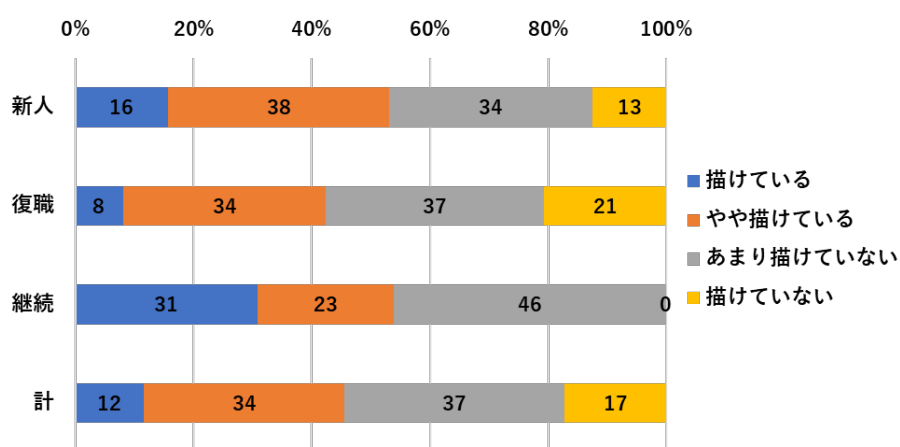


図13：キャリア展望を描けているか

キャリア設計にあたり、センターの受講は有用であったかについては、「有用」が54%と最も多く、次いで「とても有用」が30%、「どちらともいえない」が14%、「有用ではなかった」が2%と続いた。「新人」では、「とても有用」が41%と最も多く、次いで「有用」が34%、「どちらともいえない」が25%と続いた。「復職」では、「有用」が61%と最も多く、次いで「とても有用」が26%、「どちらともいえない」が11%、「有用ではなかった」が2%と続いた。「継続」では、「有用」が46%と最も多く、次いで「とても有用」が38%、「どちらともいえない」・「有用ではなかった」がともに8%であった（図14）

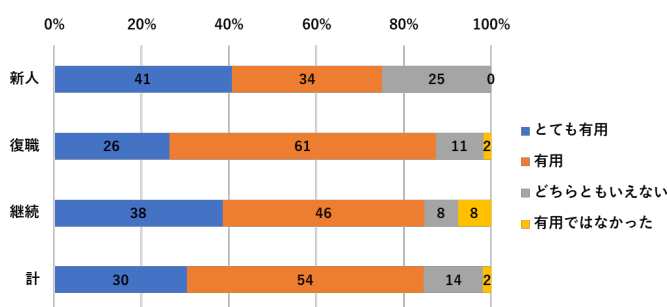


図14：キャリア設計にあたってのセンター受講の有用性

現時点における仕事と生活のバランスについて、「仕事と生活を両立」が53%と最も多く、次いで「生活優先」が33%、「仕事優先」が14%であった。「新人」では、「仕事と生活を両立」が50%と最も多く、次いで「仕事優先」が28%、「生活優先」が22%と続いた。「復職」では、「仕事と生活を両立」が53%と最も多く、次いで「生活優先」が39%、「仕事優先」が7%と続いた。「継続」では、「仕事と生活を両立」が54%と最も多く、次いで「仕事優先」が38%、「生活優先」が8%と続いた。(図15)

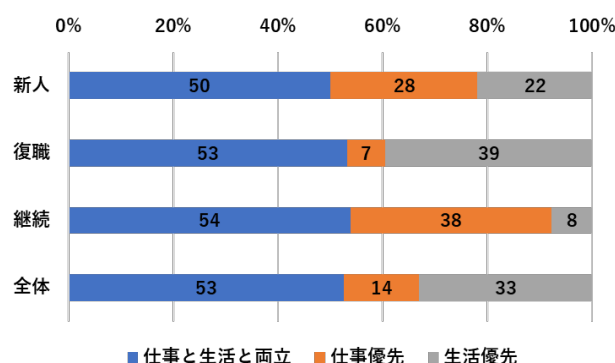


図15：現時点における仕事と生活のバランス

D. 考察

今年度の調査では、対象校を増やしての実施となったが、72.6%の回収率が得られたこと、また無効となる調査票がなかった。これらの要因としては、対象校3校から修了生への調査協力依頼をいただけたこと、研究課題への高い関心などが考えられる。

今回、委託事業の本来の対象者である「新人」「復職」と、本来は対象ではないが様々な理由により受講に至った「継続」の3群に分けて集計を実施した。卒直後、復職後など時期別にどのようなサポートが求められているかに関して考察を行う。

1) 新人（免許取得3年未満）に関して

今回の回答者のうち「新人」は32名と少人数であった。受講のきっかけとしては免許交付時に郵送される「チラシ」(34%)、「勤務先の上司・同僚からの紹介」(31%)と多かったが、毎年6000人超の新人歯科衛生士が誕生しており、様々な不安を抱えながらも受講に至らない新人歯科衛生士もいることが想定されることから、新人歯科衛生士に対する更なる周知や、研修を受講しやすい環境づくり（例：卒後歯科衛生士全員に1講座無料受講チケット付きのチラシの配布、受講によるインセンティブ付与、勤務先の研修受講への理解）をさらに進めるとともに、受講人数増加にも耐えうるセンターの準備も求められる。

今回の調査結果による新人歯科衛生士の勤務状況としては、常勤勤務が多く(88%)、勤務先としては歯科診療所(84%)、病院(16%)の順となった。平成30年衛生行政報告例によると、歯科衛生士の就業場所は歯科診療所が90.5%、病院は5.0%である³⁾こと、昨年度に全国の歯科衛生士養成学校最終学年を対象として実施した調査研究の結果でも卒業後すぐ歯科衛生士として就職する者の希望就業場所は「歯科診療所」が93.8%、「病院/大学病院」が4.3%であること⁴⁾から、本センターを終了した新人歯科衛生士の病院歯科勤

務の新人歯科衛生士の受講割合が相対的に高いと考えられる。この理由は今後の検証課題となるが、このためセンターでの実施カリキュラムを検討する際、歯科診療所従事の際に必要となる内容にとどまらず、病院歯科従事の際に必要な内容も提供できることが望ましいと考えられる。研修受講の理由として、1位に「スキルの向上」を選択したものが多く（66%）、2位には「自信をつけたい」を選択したものが多く（41%）、3位には「新しい知識・技術を身につけたい」を選択したものが多かった（32%）。また、この3項目は1-3位のどれかで選択されていることが多かった（1-3位の計は順に90.6%、78.1%、68.8%）。受講後の感想では90%超が「とても良かった/良かった」と回答し、研修受講後には「新しい知識・技術が身についた」（69%）、「スキルが向上した」「自信がついた」（同44%）、「相談できる環境・仲間ができた」（31%）と回答していた。卒直後の不安として、新人の65%が「自分の技術・知識不足」を挙げていることから、センターの受講がこうした不安解消への一定の効果があると考えられる。また、卒直後の歯科衛生士の早期離職防止に有用な重要事項としては、1位に「相談できる仲間・環境」、2、3位に「技術不足へのフォロー」が選択されており、センター受講の理由としては「相談できる環境・仲間がほしい」はほとんど選択されないが、センターの受講による「相談できる環境・仲間」を得られたこともセンター終了後も見据えた持続的な離職防止の効果が高いと考えられる。

歯科衛生士を長く続けるために大切だと思うこととして、新人歯科衛生士は1位に「仕事へのやりがい」を選択した（38%）。その一方で、「歯科衛生士はやりがいのある仕事か」に対しては、31%が「どちらともいえない/いいえ」と回答し、「生涯、歯科衛生士として働きたいか」には47%が「どちらともいえない/いいえ」、「歯科衛生士になってよかったか」には38%が「どちらともいえない/いいえ」と回答した。また、47%がキャリア展望を「あまり描けていない/描けていない」と回答している。これらの結果から、卒前教育やセンターなどでの卒直後教育（なるべく早い時期に）として、歯科衛生士の社会的意義・やりがいを積極的に伝え、体感させることが歯科衛生士のキャリア教育として重要視すべきではないかと考える。

2) 復職（「免許取得3年以上で離職・休職中」ならびに「免許取得3年以上で離職経験有り」）に関して

今回の回答者のうち「復職」は111名と全体の71%であった。センターを知ったきっかけとしては、インターネットが42%と最も多かった。

離職に至った理由としては、78%が「結婚・子育てのため仕事ができなくなったから」と回答し、復職を考えたきっかけとして、52%が「子育てなどがひと段落したから」、27%が「仕事をする必要性ができたから」と続いた。

これまで結婚・出産に伴う退職が多くなされていたこと、子育てがひと段落したのちに復職を検討したことがうかがえるが、「子育てがひと段落してから」復職すると離職期間が長くなってしまうことが懸念されるため、今後は、子育てをしながら歯科衛生士の仕事を両立するための支援も重要と考えられる。

今回の調査結果による復職歯科衛生士の勤務状況としては、「非常勤勤務」が48%、「常勤勤務」が37%であった。また、勤務先は「歯科診療所」が62%と多いものの、「在宅訪問歯科診療」が15%、「病院」「介護施設」が各7%と、勤務先にバリエーションが見

られた。このためセンターでの実施カリキュラムを検討する際、歯科診療所従事に際して必要な内容にとどまらず、在宅訪問歯科や介護施設・病院に従事に際して必要な内容も選択的に提供できることが望ましいと考えられる。

センター受講のきっかけとしては、「復職したいと思ったから」が27%と最も多く、センター受講が歯科衛生士としての復職への足掛かり・後押しとなっていることが示唆される。また、「新しい知識・技術を身につけたい」、「自信をつけたい」、「スキルの向上」なども多く選択されていた。センター受講は、84%が「とても良かった/良かった」と回答し、センター受講を通じて、「新しい知識・技術が身についた」が57%、「自信がついた」「相談できる環境・仲間ができた」が47%と続いた。

復職後すぐの歯科衛生士の早期離職防止に有用なこととしては、「技術不足へのフォロー」、「知識不足へのフォロー」、「相談できる仲間・環境」、「勤務体制の管理」などが挙げられていた。「技術不足へのフォロー」、「知識不足へのフォロー」、「相談できる仲間・環境」に関しては、センター受講がこれらに有効と考えられる一方で、特に復職者に対しては職場での「勤務体制の管理」も早期離職防止に有用であることが示唆される。

また、歯科衛生士を長く続けるために大切だと思うことに関しては、復職は「勤務条件（勤務時間・福利厚生）」、「仕事へのやりがい」、「自分のスキル」が多く選択された。現時点における仕事と生活のバランスに関しては、53%が「仕事と生活を両立」、39%が「生活優先」と回答した。

「歯科衛生士はやりがいのある仕事か」は86%が「はい」と回答し、「歯科衛生士になってよかったか」には76%が「はい」と回答した。「生涯、歯科衛生士として働きたいか」には64%が「はい」と回答した。センター受講はキャリア設計に有用だったかには87%が「とても有用/有用」と回答したが、一方で「キャリア展望を描けているか」には58%が「あまり描けていない/描けていない」と回答した。生活と両立可能な勤務条件（非常勤勤務が選択されやすいか）の中でも、仕事のやりがいを実感できる歯科衛生士としてのキャリアプランが提示できれば、よりキャリア展望が描きやすくなるかもしれない。

最後に、本研究実施にあたり、東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科衛生士総合研修センター・大阪歯科大学歯科衛生士研修センター・広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センターのスタッフならびに同センターの修了生の皆様に多大なご協力をいただいたことを心より感謝申し上げます。

E. 結論

免許取得直後、もしくは求職中・復職直後の歯科衛生士の歯科衛生士総合研修センターにおける研修受講は知識・技術の獲得、相談できる仲間・環境の獲得、自信の獲得につながったと考えられた。センター受講はキャリア設計に有用だったと8割が回答したが、一方で研修修了後も歯科衛生士としてのキャリア展望を描けていないと考えているものも多く、生涯教育として継続的にキャリア教育を提供する/受講することが必要と考えられる。また、免許取得直後の歯科衛生士には仕事のやりがいを体得してもらうこと、離職者・復職直後者には仕事と生活が両立しやすい、もしくは生活優先でも勤務が継続できる勤務条件（勤務時間・勤務場所）を整えることも歯科衛生士の離職防止・復職支援において重要と考えられた。

F. 引用文献

- 1) Togari T, Yamazaki Y, Nakayama K, Shimizu J. Development of a short version of the sense of coherence scale for population survey. J Epidemiol Community Health. 2007;61(10):921-922.
- 2)SOC スケールとその概要 SOC スケールの種類と内容・使用上の注意点・課題：戸ヶ里 泰典, 山崎 喜比古：看護研究 42 (7)：505-516；2009.
- 3) 平成 30 年 __ 衛生行政報告例 __ 就業医療関係者 __ 概況 (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/18/dl/kekka2.pdf>)
- 4)歯科医療従事者の働き方と今後の需給等に関する調査研究 令和元年度分担研究報告書 歯科衛生士の働き方等に関する意向分析 (1)：歯科衛生士学校養成所および卒業年次生への調査. 田野ルミ, 三浦宏子, 福田英輝, 大島克郎, 則武加奈子. 2019 p36.

G. 研究発表

(学会発表)

則武加奈子, 田野ルミ, 福田英輝, 大島克郎, 渡邊洋子, 大城暁子, 新田浩, 三浦宏子. 歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業での研修受講者における勤労観. 第26回関東甲信越歯科医療管理学会学術大会. 2020. オンライン.

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし